

誰もまだ見たことのない表現への挑戦 まだ誰もたどり着いたことのない領域への架橋 創造とは今を受け入れ超えてゆく連続のことだから

事業編
創造発信

アートファームの創造発信事業には、演劇やダンスならではの同時代性が生かされてきた。東日本大震災の発生とそれに伴う福島第一原子力発電所の事故が起きた 2011 年は、私たちの創作活動にとっても重要な節目の年となった。この年、公益財団法人福武教育文化振興財団とともに開始した「犬島 海の劇場」では、維新派『風景画』、移動演劇『宮本常一への旅〜地球4周分の歌〜』、翌年のダンス掌編集『たまゆら』、燐光群『内海のクジラ』、鳥の劇場『天使バビロンに来たる』などを創作したが、いずれの作品にもアーティストに与えた 3.11 の衝撃が、瀬戸内海の美しい風景のなかで痛々しく反映されていた。

演劇の同時代性は、劇場公演の創作においても発揮された。震災当日に本番公演を迎えた演劇ユニット水蜜塔の第 6 回作品『MORAL』と、翌年その体験を批評的に描いた第 7 回作品『12月34日』を発表した。2014年にアートファーム創立 20 周年企画として創作した『狭い家の鴨と蛇』では、中世の被災や飢饉から生まれた名著「方丈記」をモチーフに、3.11 以後の時代を生きる日本人の試練と無常を予兆的に舞台化した。

一方、アートファームではこうした創造発信事業を進めていくうえで、さまざまな違いや隔たりを越境した複合的な取り組みに力を注いできた。人材育成を目的とする岡山舞台芸術ゼミナールに連動してプロとアマチュアが協働で作品づくりをしたり、交響劇というカテゴリーにさまざまな舞台芸術を融合させたり、静岡県内の芸術劇場や高松市のサンポートホール、岡山県の天神山文化プラザ、岡山市の西川アイプラザなど、地域や施設を超えて新しい演劇作品を共同製作したりと、前例や通念にとらわれない実験精神が確かな成果を生んできた。

創造発信事業の越境手法を多彩に展開してきたのが、2017年から開始した岡山芸術創造劇場のプレ事業として取り組んだ「わが町」シリーズであった。2023年開館の岡山市の新しい文化芸術施設に隣接する商店街や街区を会場として、演劇・ダンス・映画・音楽・朗読などの表現が縦横に織り合いながら、NPO・行政・商店・市民が協働参加して実現した継続プロジェクトであった。多くの表現が街頭作品であったことから、創作を成立させる必須要件として、そのエリアで商いをしたり、暮らしを営む人々との理解やコミュニケーションを欠かすことができなかった。いわば、実践的なアートマネジメントによって作品創作や公演運営が支えられたのである。

「わが町」シリーズの渦中で惹起した新型コロナウイルスの感染拡大は、創造発信事業にも大きな影響を与えた。とりわけ、2020年から2021年にかけて計画されていたスロー・シアター・プロジェクトは 2 公演が中止となり、他の作品創作においても稽古段階からの感染防止対策や本番公演での観客削減など、主催事業にさまざまな負荷を強いられてきた。その災禍は今なお、収束を告げてはいない。

■ 劇房企画

2000年5月発足

地域の演劇・ダンス分野から独創性の高い才能と作品を創作発表するプロデュース事業

□ Laft ダンス 藤栗毛『Nice Trip』

振付・出演：Laft

2000年5月21日 会場：デビットホール

英国の建築家が設計した斬新な旧民間ゼネコン施設を活用して実施

2001年9月17日 会場：岡山スカイガーデン屋上テラス

旧京山ロープウェイの山頂に立つ円柱施設の屋上を会場にして実施

2002年5月5日 会場：熊山町工悦邑

赤磐市熊山町の山間にあるため池の水面を舞台にしたパフォーマンス



Laft ダンス 藤栗毛『Nice Trip』公演

就実大学ダンス部に所属していた社会人で結成された laft。企業の社屋、山間の池上、古民家の庭…さまざまな場所の記憶と慕情を美しく表現した。

■ スロー・シアター・プロジェクト (STP)

2003年1月発足

時代や地域や分野を超えて、ゆるやかに醸成されていく広汎な芸術表現をプロデュース

□ 『Dance at Home』

2003年11月16日 会場：古民家 (岡山市北区)

振付・出演：北村成美

旭川河畔にある古民家の座敷を舞台にコンテンポラリーダンスを踊る

□ ヴォイス・クルージング『いま戦後詩を読む』

2004年1月24日 2月14日 3月6日 会場：エスプリ (岡山市北区)

監修：秋山基夫 解説：北川透

戦後まもなく創刊した詩誌「荒地」に集成された作品を朗読

□ 笑学講座『落語ワークショップ』

講座：2004年8月29日～2005年2月6日 会場：後楽園・廉池軒

発表：2005年2月13日 会場：後楽園・鶴鳴館本館

2ヶ年にわたり三代目桂文之助 (桂雀松) を講師に迎えて講座を実施



STP 『Dance at Home』公演

舞踊家・北村成美が江戸期の能舞台を要する古民家で踊った。



落語ワークショップ

噺家・桂雀松 (現三代目桂文之助) を講師に迎え後楽園内で開催。

■ 演劇ユニット・水蜜塔

2003年12月結成

プロとアマ、地域や劇団の境界を超えて現代演劇の新しい才能と作品を創造するユニット
事業支援：日本芸術文化振興会、岡山県天神山文化プラザ

□ 第 1 回公演『ただようように』

2004年7月17日 会場：西川アイプラザホール

2004年8月1日 会場：サンポートホール高松

作：林田恵里 演出：水沼健

□ ドラマリーディング公演『近代能楽集』

2005年7月20日 会場：コマンド

作：三島由紀夫 演出：風早孝将、森峰清

□ 朗読ミュージカル公演『天神遊戯』

2005年10月16日 会場：岡山県天神山文化プラザ

作：内田百閒、他 演出：谷口浩成

□ 第 2 回公演『しだいにこども』

2006年7月15日 16日 会場：西川アイプラザホール

作：林田恵里 演出：風早孝将

□ 第 3 回公演『Voices』

2007年3月24日 25日 会場：岡山県天神山文化プラザ

作：森谷めぐみ 演出：風早孝将

□実験シアター『銃の凍てつく温度』

2008年3月28日29日 会場：ArtBox さらさ

作・演出：風早孝将

□第4回公演『足の生える地平』

2008年7月12日13日 会場：岡山県天神山文化プラザ

作・演出：風早孝将

□第5回公演『全てに隣接するが何よりも遠く』

2009年5月23日24日 会場：岡山県天神山文化プラザ

作・演出：風早孝将

□第6回公演『MORAL』

2011年3月11日12日13日 会場：本涌山本行寺

作：如月小春 演出：風早孝将

□第7回公演『12月34日』

2012年3月3日4日 会場：岡山県天神山文化プラザ

作・演出：風早孝将



水蜜塔第1回『ただようように』公演

演劇ユニット水蜜塔は、人材育成事業の岡山舞台芸術ゼミナールの戯曲講座や演技講座の参加者を中心に発足した。旗揚げ公演の創作戯曲は津山市から参加した林田恵里の作品を、演技講座の講師を務めた水沼健（MONO 俳優、壁ノ花団主宰）が演出した。地方に暮らす若者と家族の関係を繊細なタッチで描いた舞台は、2004年夏に岡山市の西川アイプラザホールと高松市のサンポートホールで上演された。

水蜜塔第6回『MORAL』公演

初日のゲネプロ中に東日本大震災が勃発。刻々と深刻なニュースが報道されるなか準備を続け、演出・風早孝将と協議し公演を遂行することとした。



■ダンスユニット・モアモア

2004年9月結成

コンテンポラリーダンスの自由で多様な表現の可能性を求めて結成された創作ユニット

□プロデュース公演『や〜!』

2005年1月16日 会場：西川アイプラザホール

振付：須原由光（ズンチャチャ）

ズンチャチャのメンバーと公募参加者により上演された新作ダンス



モアモアダンス『や〜!』公演

コンテンポラリーダンスの創作ユニット・モアモアは、一般から学生まで多彩なメンバーで旗揚げしたが、継続的な作品創作の活動には至らなかった。

■ブルーラル・シアター・プロジェクト（PTP）

2007年11月発足

岡山のNPO法人と静岡の公立劇場が演劇の共同製作に挑んだ3ヵ年計画プロジェクト
事業支援：日本芸術文化振興会、岡山県天神山文化プラザ、岡山市、静岡県舞台芸術センター、福武教育文化振興財団

□1年目作品『王女A』

2007年11月17日18日 静岡会場：静岡県舞台芸術公園BOXシアター

2008年1月12日13日 岡山会場：岡山県天神山文化プラザ

作・演出：松田正隆

演出家が岡山市に長期滞在し公募出演者とともに実験的作品を創作

□2年目作品『草迷宮』

2008年11月8日9日 岡山会場：岡山県天神山文化プラザ

原作：泉鏡花 戯曲：岸田理生 演出：角ひろみ

演出・出演・スタッフの全員が岡山のメンバーで泉鏡花作品に挑む

□3年目作品『逃げ水』

2009年10月24日25日 静岡会場：静岡県舞台芸術公園BOXシアター

2009年11月22日23日 岡山会場：岡山県天神山文化プラザ

戯曲：角ひろみ 演出：夏井孝裕

岡山を舞台にしたオリジナル戯曲をレジデンス創作し両都市で上演



PTP『王女A』公演

PTP『草迷宮』公演

NPO法人アートファームは、公益財団法人静岡県舞台芸術センター（SPAC・宮城聡芸術総監督）と2007年から3ヵ年にわたり1年に1本の演劇作品を共同製作し、岡山と静岡の両都市で上演を行った。「ブルーラル・シアター・プロジェクト」と名付けられたこの事業は、ブルーラルの名称が示すように、さまざまな複合・融合的な意義が内包されていた。事業主体はアートファームが担って作品・陣容を決定し、アーティスト・イン・レジデンスや上演活動においてはSPACとの協働制作が図られた。私たち岡山メンバーも、静岡県舞台芸術公園BOXシアターでの公演では、公園内の施設に滞在しながら、練習と上演に取り組んだ。3ヵ年の作品と作・演出は次のとおり。

2007年『王女A』作・演出：松田正隆

2008年『草迷宮』原作：泉鏡花、劇作：岸田理生、演出：角ひろみ

2009年『逃げ水』作：角ひろみ、演出：夏井孝裕



■交響劇

2010年4月発足

第25回国民文化祭おかやまに採択され総社市・鬼ノ城跡と岡山市・旭川河川敷で野外上演
事業支援：文化庁、岡山県、岡山市、福武教育文化振興財団、三菱UFJ信託地域文化財団
マルセンスポーツ文化振興財団

□『神々の微笑〜古代吉備王国の光〜』

2010年9月23日 総社市会場：鬼ノ城跡角楼

2010年11月6日7日 岡山市会場：旭川西中島河川敷

原作・戯曲：海菜紘一 演出：大森誠一

古代吉備と遊牧騎馬民族の繋がりを演劇・音楽・舞踊の融合で舞台化

交響劇『神々の微笑』公演

岡山市の旭川西中島河川敷での上演では、暮れなずむ旭川と市街地を背景に、古代吉備王国へとタイムスリップする物語がリリカルに繰り広げられた。





犬島 海の劇場・維新派『風景画』公演

世界的な野外劇集団として現代演劇史に足跡を残した維新派は、瀬戸内海にある岡山市の離島・犬島において2002年『カンカラ』、2010年『台湾の、灰色の牛が背のびをしたとき』、2011年『風景画』、2013年『MAREBITO』の4回にわたり新作を上演した。2ヵ月余を犬島に滞在して巨大な舞台と客席を擁する野外劇場を仮設する維新派スタイルの中で、2011年に創作した『風景画』は異彩を放った。舞台装置も客席も造らず、犬島港にほど近い入り江を会場とし側道を客席に設えた。入り江の水面を舞台とした演出・松本雄吉は、潮の干満から月の運行までを微細に計算し、背景となる瀬戸内海の島々や行き交う船影までも舞台美術として採り入れた。2002年の犬島アーツフェスティバルから2016年の犬島パフォーミングアーツプログラムまで、アートファームは数々のサイトスペシフィックな野外公演を企画・上演したが、松本雄吉演出の『風景画』は、現代演劇史の頂きに到達した不世出な作品といえる。

■ 犬島 海の劇場

2011年1月発足

犬島(岡山市東区)の地域資源をトップレベルの舞台芸術作品で全国発信する創造事業公益財団法人福武教育文化振興財団創立25周年記念事業として2011年より共同主催事業支援:福武教育文化振興財団、文化庁、岡山市

□維新派『風景画』

2011年9月23日24日25日 会場:犬島・中の谷入り江

構成:松本雄吉 出演:維新派

潮の干満が造る入り江の変化を天然の舞台にした画期的な野外劇公演

□移動演劇・宮本常一への旅『地球4周分の歌』

2011年10月9日10日 会場:宝伝港・犬島各所

演出:村川拓也

宮本常一「忘れられた日本人」を題材に犬島を演劇で巡る斬新作品

□犬島ダンス掌編集『たまゆら』

2012年7月28日29日 会場:犬島・南海岸/天満宮/チケットセンター芝生広場

振付・出演:楠田健造、柳本雅寛、湯浅永麻、ミゲル・オリベイラ、犬島の人々

オランダのNDT所属の湯浅永麻らが犬島を題材に新作ダンスを披露

□燐光群『内海のクジラ』

2012年9月22日23日 会場:犬島・西ノ谷湾岸

作・演出:坂手洋二

犬島の湾岸を舞台に海を旅するクジラとの邂逅を描いた新作野外劇

□鳥の劇場『天使バビロンに来たる』

2012年11月3日4日 会場:犬島・近代化産業遺産発電所跡

作:フリードリッヒ・デュレンマット 演出:中島諒人

銅精錬所の発電所跡をロケーションに文明批評的な演劇作品を創作



犬島 海の劇場・鳥の劇場『天使バビロンに来たる』公演

犬島には銅精錬所跡に発電所の遺構があり、鳥の劇場はこれを借景に上演した。対面の海側でも上演があり、客席を双方向に設営することになった。

■ 瀬戸内国際芸術祭 2013

2013年10月参画

公益財団法人福武財団と維新派との協働開催で創作上演された犬島野外劇プログラム事業支援:文化庁、岡山市、福武財団

□維新派新作野外犬島公演『MAREBITO』

2013年10月5日~14日 会場:岡山市東区犬島・海水浴場

構成:松本雄吉 音楽:内橋和久 出演:維新派 舞台監督:大田和司 他

海水浴場に出現した巨大な野外劇場で美しい瀬戸内海の夕景と共に展開する野劇

瀬戸内国際芸術祭 2013・維新派公演『MAREBITO』

維新派は犬島最後の野外公演を海水浴場で行った。波打ち際にもうひとつの水面を設営し、2002年から続いてきたアジア漂流譚に終止符を打ったのである。



■ アートファーム創立20周年企画<演劇>

2012年10月発足

NPO法人アートファーム創立20周年企画として3年にわたり多彩なジャンルで開催事業支援:文化庁、岡山市スポーツ文化振興財団、福武教育文化振興財団

□方丈記プロジェクト『狭い家の鴨と蛇』

2014年1月25日26日 会場:西川アイプラザホール

原作:鴨長明 戯曲:角ひろみ 演出:泊篤志(飛ぶ劇場)

3.11以後を生きる日本人の方途を全編岡山弁で描いた現代演劇



創立20周年企画公演『狭い家の鴨と蛇』

東日本大震災の翌年に企画制作された新作は、大地震と打ち続く飢饉などの災禍に見舞われた平安京を描いた「方丈記」を、現代の家族の物語として劇化した。

■ 野の舟☆スパーク

2015年3月発足

地域の意欲的な個人や団体の創作活動を文化芸術のジャンルを超えて支援プロデュース

事業支援：福武教育文化振興財団

□おんな独演『土佐源氏』早春篇

2015年3月6日7日8日 会場：丸の内テラス

原作：宮本常一 演出・出演：友國淳子

辺境に生きる常民の一代記を役者・友國淳子が体当たり演技で挑む

■ 犬島パフォーミングアーツプログラム (犬島 PAP)

2015年10月参画

公益財団法人福武財団が犬島から先駆的な舞台芸術を創造発信する助成プログラムを創設

事業支援：福武財団、岡山市

□演劇公演『URA-SHIMA』

2015年10月17日18日 会場：犬島・海水浴場、「精錬所美術館」敷地内近代化産業遺産

演出：小野寺修二 テキスト：角ひろみ

浦島太郎伝説と犬島の風景が融合展開する観客参加型の移動野外劇



犬島 PAP 公演『URA-SHIMA』

本公演は犬島の海水浴場から始まり、銅精錬所跡の遺構を経て、地中美術館隣接の広場で終わるという移動上演で、観客も島内を巡り歩きながら小野寺修二演出・デラシネラ出演を楽しんだ。

■ アートファーム創立 25 周年企画 <演劇 × 越境 × Excite>

2017年3月～

“越境”をテーマに演劇が地域や分野の隔たりを越える取り組みを周年事業として展開

□劇団銀河鉄道岡山公演『銀版 熱海殺人事件』

2017年3月18日19日 会場：西川アイプラザホール

作：つかこうへい 潤色・演出：上村良介 出演：川端健悟、徳永徹、渡邊妙、他
周年事業第1弾として圏域を越えた香川の劇団とつかこうへいへのオマージュ作品を創作



銀河鉄道公演『銀版 熱海殺人事件』

創立 25 周年の事業を高松市の老舗劇団・銀河鉄道に依頼した。主宰の上村良介がつかこうへいの『熱海殺人事件』を新演出により創作。迫真の舞台を披露した。

Column

第1波・3波・5波…コロナ禍により 中止を余儀なくされた創作現場

新型コロナウイルス感染拡大の影響を最初に受けたのは2020年3月であった。

前年の9月から毎月1回、岡山芸術創造劇場のプレ事業として実施した「演劇の広場ワークショップ」の最終回（講師：藤田貴大）を直前で中止し、同月に予定されていた自主事業の「短歌ワークショップ」も中止とした。コロナ禍は波状的に私たちの取り組みを襲い、20年度のスロー・シアター・プロジェクト『雨ニモマケズ』（演出：永山智行）は第3波がピークを迎えた1月公演を中止した。さらに、同プロジェクトは21年度にも宮沢賢治の『春と修羅』（演出：永山智行）の舞台化に挑んだが、第5波が急速拡大した9月公演の中止を余儀なくされた。いずれのケースも創作活動は途絶えてしまったが、そこに集った座組は解かれることはなかった。

公演のゴールには宣材も辿り着けなかった。右掲の両チラシデザインはチャーハン・ラモーン氏。



『雨ニモマケズ』チラシ



『春と修羅』チラシ

■ 岡山芸術創造劇場プレ事業

ひと・まち・つくるプロジェクト「わが町」シリーズ

2017年7月開始

2023年9月開館の岡山市の新しい文化芸術施設・岡山芸術創造劇場【ハレノワ】のプレ事業がスタート。

「劇場と地域をつなぎ、舞台芸術と市民をむすぶ」をコンセプトに、新劇場エリアの街区や商店街を舞台にした創作活動を繰り広げた。

事業支援：岡山市、岡山文化芸術創造、福武教育文化振興財団

□「わが町」ワークショップ

創作：舞台美術+身体表現の融合上演

2017年9月30日～2018年1月27日

会場：岡山市表町商店街、丸の内・京橋地区、岡山市市民会館会議室、岡山市中央公民館、さんかく岡山、西川アイプラザ

舞台美術：カミイケタクヤ 演出・振付：小野寺修二 参加者：市民公募
まち歩きした実体験を市民がダンスと舞台美術に表現し上演した。



岡山芸術創造劇場プレ事業

「わが町」ワークショップ

岡山市街・千日前地区はかつて映画街であった。その面影が新しい劇場の再開発で失われてしまう前に、遺されていた映画館の看板やロゴサインを舞台美術に再現した。

□「わが町」ものがたり

創作：聞き書きワークショップ+まち歩きシアター

2018年8月25日～2019年3月24日

会場：岡山市表町商店街、京橋地区、丸の内テラス

演出：角ひろみ パフォーマンス：小野寺修二 美術：カミイケタクヤ

物語創作：秋山基夫、

物語朗読：古市福子、沖田喜一 出演：市民公募

老舗や古事を市民が取材し聞き書きした10篇の物語を「まち歩きシアター」として上演した。

□「わが町」シネマ

創作：『歩むなら』

2019年10月13日～2020年2月15日

会場：岡山市表町商店街、京橋・西中島地区、コチャエ、丸の内テラス、路面電車、岡山シティミュージアム

作：河原彩花 翻案・監督：山崎樹一郎 出演：市民公募

前年度の聞き書きワークショップ作品『歩むなら』を山崎樹一郎監督が市民参加映画として 創作した。

□「わが町」ミュージカル

創作：『らんどう』

2020年9月20日～11月23日

会場：岡山市表町商店街、さんかく岡山、本涌山本行寺、深柢コミュニティハウス

脚本：すがあさみ 演出：角ひろみ 振付：北村成美 出演：市民公募

音楽：大西千夏

岡山市街の伝承歌謡と鐘撞堂寓話をモチーフに市民参加のストリートミュージカルを創作した。

□「わが町」アクセス

創作：徘徊演劇『よみちにひはくれない』岡山バリアフリー公演

2021年10月16日～11月28日

会場：岡山市表町商店街、京橋地区、深柢コミュニティハウス、丸の内テラス

視聴覚障害者への観劇サポートや高齢者の出演など市街劇によるバリアフリー公演を実現した。



岡山芸術創造劇場プレ事業「わが町」シネマ

映画『歩むなら』は、生き辛い現代社会の若い女性の心象を活写した。商店街の筋、京橋の河原、西中島の路地、路面電車の車窓…岡山の今を伝える風景映画でもあった。